

コバノチョウセンエノキ *Celtis biondii* Pamp.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 15。大陸系の樹木で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も少なく、また石灰岩の採掘等によって失われるおそれがある。

【形態】

落葉性の小高木。幹は高さ 10m くらいになる。樹皮は灰色、枝は灰褐色で、若時には黄褐色の短毛を密生する。葉は互生し、長さ 2~7mm の柄があり、葉身はやや硬くて厚く、倒卵形または広倒卵形で左右やや不相称、長さ 3~7cm、幅 2~3.5cm、先端は尾状にのび、基部は広くさび形、辺縁は中部以上に鋸歯がある。花期は 5 月、果実は球形で直径 5~6mm、黒褐色に熟し、核には顕著な網状紋がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 60080, 1996-9-14)、3 東栄 (芹沢 79334, 2004-8-21)、12 新城 (小林 59830, 1996-7-21)、15 豊橋北部 (小林 66564, 1999-7-2)。ただし豊根と新城は現在のところ幼木が確認されているだけなので、集団数から除外されている。

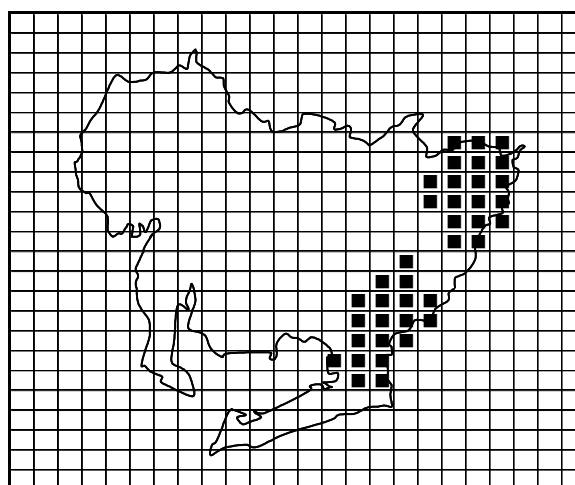
【国内の分布】

本州 (愛知県以西)、四国、九州の山地に分布する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

西日本の石灰岩地に点在する。愛知県豊橋市の自生地は石灰岩地、東栄町の自生地は流紋岩質火山岩のガレ場である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落がある場所ではよく開花結実するが、希少種であることを意識しない伐採により失われるおそれがある。将来的には、石灰岩の採掘も懸念される。

【保全上の留意点】

豊橋北部に点在する石灰岩地は、規模は小さいが、注目すべき植物が多く生育している。国指定の天然記念物として保護されている石巻山以外の場所も、注意して保全する必要がある。東栄の自生地については、個別的な保全が必要である。

【特記事項】

エノキに比べて葉がやや厚く、先端が長く伸びる。

【関連文献】

保木 II p.253, 平木 I p.81, 平新版 2 p.330, SOS 新版 p.50,52.